

野村佳代作 「光の子って、すばらしい！」

岡本麗子(33才) 大橋めぐみ
岡本 博(36才) 畠山祐樹
南 浩太(22才) 東裕之
畑のおじいさん(72才) 宮本正勝
畑のおばあさん(70才) 村田泉
牧師 小川政弘
教会案内人 岡田久美子
司会者 野村波留子
子どもたち 野村楓、野村潤、末永凌玖
テレビアナウンサー 野村佳代

○昼下がりの郊外

(子どもたちの声)

麗子 車が来たよ、もっと端っこ歩いてね。

子どもたち はい。

(ナレーション) 私は、岡本麗子。三人の子の子育てに日々頑張っている。子どもを連れてのお散歩コースに貸し農園がある。散歩の途中にちょっと立ち止まって交わすそこの老夫婦との会話は、私の楽しみの一つなのだ。

(子どもたちの元気な声、農園での作業の音)

麗子 おはようございます。

子どもたち (口々に)おはようございます。

おじいさん おや、岡本さん。

おばあさん おはようございます。

麗子 (子どもたちに)あー。そこは入っちゃ駄目よ。(子どもたちの声)

おばあさん 毎日この小さい三人の子を連れて遊ばせるのも大変だね。

おじいさん こうして元気な子どもの声を聞きながら畑仕事ができるのは幸せだけだね。

麗子 この子たちは、おうちではリトルギャングなんですよ。

おばあさん (笑う)ギャングだなんて、子どもは天使よね。

(ナレーション) この貸し農園でいつもお話する老夫婦は、仲睦まじく、農園コンテストで優勝したほどの腕前。近所では憧れのご夫婦だ。

おじいさん 今年は、色々よく育ってくれて、随分収穫できたんですよ。

おばあさん 本当にそうでしたね。ご近所にもおすそ分けできましたしね。

おじいさん 野菜は手をかけた分だけ応えてくれる。子どもみたいにかわいいね。自分の頑張りだと思ってしまうが、そうじゃない、おてんとう様に感謝だね。

麗子 本当にそうですね。我が家は、こうして外に出ないと、家にいたら大喧嘩が始まってしまうんです。

おばあさん うちの孫は女の子一人だから、まあ何とかやってますけどね。岡本さんは本当によくやってるね。子どもたちは野菜好きだと言っていたけど、それは、あなたが、ちゃんとお料理しているからだね。よかったら、またお野菜持って行ってね。

麗子 いつもありがとうございます。(すすり上げながら)そう言っていただけで……。

おばあさん あら、何かいけないこと言ったかしら。

麗子 とんでもない。(と言いながら、すすり泣き)

子ども 1 お母さん泣いてる。

子ども 2 どうしたの、お母さん？

子ども 3 お母さん、泣かないで。

子どもたちの声 (以下のナレーションのバックで)

(ナレーション) 優しい言葉に、張りつめて頑張っていた気持ちが崩れてしまった。夫の博は会社員で、4月に課長に昇進したものの、仕事の重圧からか、家に帰ると私たち家族に当たるようになった。働き方改革を取り入れることになって、夫は在宅ワークをする日が多くなっていた。一日家にいるのに全く家庭を顧みようとしないばかりか、一日中、家事やら子育てやらで疲れている私に暴言を浴びせるのだ。つい昨日のことだった。

リビングで

(おもちゃの音、子どもたちと赤ちゃんの声)

博 (電話で)南。お前はいつまで新入社員だと思ってるんだ。しっかりしろ。今までの研修は何のためにやってきたんだ。「一を聞いて十を知る」だ。一つ一つ説明してもらえる時期は、もうとっくに終わってるんだ。……え？「すみません」で済むことか！

(おもちゃの音、子どもたちと赤ちゃんの声が大きくなる)

博 うるさいな。 こっちは仕事してるんだぞ！

麗子 そんなこと言っても、子どもたちには無理よ。あなたも少しは考えてよ。

博 お前、誰のおかげでこうして暮らせてると思ってるんだ。とにかく、うるさくてこれでは仕事ができない。どこか連れて行ってこいよ。

麗子 私だってできる限りの事やっています。そんなに外にばかり行っていただけません。

博 何だと？ 俺に文句言うのか。

麗子 文句じゃありませんよ。ほんとのことを言ってるだけです。あなたも。たまには遊んでやってよ。

博 うるさい！ 仕事のことも何にも分からないくせに。

子ども1 お父さん、おかあさん喧嘩やめて。

子ども2 やめて。(泣き声)

麗子 (泣く)

赤ちゃん (泣き声)

麗子 (モノローグ)もう限界……これ以上頑張れない……。

ナレーション そして数日後、近くで起きた事件で、私はただ一つの逃げ場となっていた子どもたちを連れての散歩にも出られなくなってしまったのだ。

○夕食

(テレビのニュース)こんばんは。7時のニュースです。きょう、午後3時頃、東栄市五月が丘^{さつき}3丁目で、学校帰りの小学三年生の女子児童が男に腕をつかまれて乗用車に引きずり込まれそうになる事件が起こりました。通りがかった男子大学生が見つけた。

声をかけたところ、男は子どもを置いて猛スピードで逃走したとのこと。東栄市では最近学校の帰りを狙った小学生の誘拐事件が相次いでおり、警察では注意を呼びかけています。

博 なんだ、近くだな。ああ、パトカーとヘリの音がずっと聞こえてたのはこの事件のせいかな。

麗子 怖いわね。子どもたちは外に出すとすぐ遠くに走っていってしまうし。しばらくはお外は怖くて行けないわね。

(ナレーション) 数週間後、犯人が捕まったという報道を聞いて、ようやく子どもたちを連れて散歩に出かけることにした、日曜日の朝のこと。

○郊外の貸し農園前

子どもたち (口々に)おはよう。おはようございます。

麗子 おはようございます。

おじいさん おお、元気にしてたかい？ しばらく顔を見なかったから心配してたんだ。

麗子 誘拐未遂事件があって怖くて……。犯人が捕まったというので、やっと外に出られたんです。

おばあさん そうだったわね。捕まってよかった。こんなかわいい子たちにひどい話だね。

(自転車の音)

南 おはようございます。

おじいさん おお、南くん。毎週ご苦労さん。

南 苦労だなんて。楽しいんです、子どもたちと一緒にいるのが。みんなキラキラしてますから。

おじいさん いいところに来た。岡本さんたちに紹介したかったんだよ。

(麗子に)こちら、南くん。駅の近くの教会で子どもたちの面倒見てるんだよ。そこのサンライズ製菓の新入社員なんだって。

麗子 (モノローグ) サンライズ製菓……博さんの会社だ。あ、いつかあの人が電話で叱り飛ばしていた相手も南という人だった。もしかして、同じ課の人かしら？

南 はじめまして。南です。

麗子 岡本です。

おばあさん よかった。あんたがたが会えたらいいなと思ってたのよ。南さん、真面目な人でね、仕事も忙しいだろうに毎週教会学校で子どもたちに教えてるんだって、あなたたちも覗いてみたら楽しいんじゃないかと思って。

南 ええ、ぜひともいらしてください。今度の日曜はバルーンアートの人に来てくれるんですよ。場所分かりますか？ 駅からちょっと坂を上がったところの十字架がある白い建物です。あ、いけない、もう行かなくちゃ。いつでもどうぞ、教会でお待ちしています。

おばあさん 南くん。帰りにまた寄ってね。野菜がよく採れたからおすそ分けしたいの。

南 (自転車で行きながら。offで) はい。ありがとうございます。

おじいさん ね？ 感じのいい青年だろう。

麗子 え？ ええ…。

(ナレーション) それから一ヶ月ほどたったある日曜日の朝のこと。

○リビングで

博 最近日曜日になるとお前たち、朝からいそいそとどこに行ってたよ。

子ども1 アーメンだよ。

博 はあ？ なんだそれ。

子ども2 早く行こうよー。

麗子 教会学校。あなたの会社の南さんが誘ってくれたのよ。

博 え？ あの新社員の？ 何でお前があいつのこと知ってたよ。

麗子 お散歩でいつも話す畑のおじいさんおばあさんの所で会ってね、そこで誘ってくれたのよ。

博 そんなところに連れてって、大丈夫なのか？

麗子 この子たちも何だか教会に行くの好きみたい。実は、今度教会で「子ども祝福式」というのがあるの。初めてでよくわからないけど、子どもの成長お祝いするみたい。「ご両親様とおいでください」って言われたけど、ねえ、あなたも一緒に行ってみない？ 南さんもいらっしゃるし。

博 南と、教会で顔合わせするのか。なんかあまり気が進まないなあ。この間、電話で少し怒りすぎたから。

子ども1 ねえ、パパも行こうよ。

子ども2 とっても楽しいんだよ。

(ナレーション) 私は、夫が家でいつもイライラしているのを、子どもたちが、言葉には出さないけど気にかけているんだと思うと、なんだかかわいそうだった。でも子どもたちの熱心な誘いに、ちょっと頬の緩んだ夫の顔を見ると、気持ちが少し動き出しているのを感じた。

○教会入り口(ガヤ)

教会案内人 おはようございます。どうぞお入りください。おいでくださり感謝です。子どもたちはキッズルームに、お父さんお母さんは会堂のほうにどうぞ。

南 あ、岡本課長。来てくださったんですか。

博 うーんまあ、何だか母親も子どももすっかり世話になってるみたいだから、ちょっと挨拶がてらな。

南 課長が来てくださって、本当にうれしいです。感謝です。

博 ああ……(モノローグ)教会って何かにつけて「感謝、感謝」って言うんだな。

○教会堂 子ども祝福式

(オルガンの音)

司会者 ではこれから、子ども祝福式を始めます。光の子たちの入場です。

(拍手)

司会者 それでは教会学校の先生を紹介します。こちら南浩太先生です。

南 南です。毎週、楽しく聖書のお話をしたり賛美歌を歌ったり、いつも元気一杯の子どもたちと過ごすひとときが与えられて、感謝です。

司会者 続いて、子どもたちを紹介します。

教会学校の子どもたち 木下舞8歳です。岡本良太です。6歳です。(続く……)

司会者 では子どもたちが賛美歌を歌います。

音楽 (子ども賛美「光の子」)

司会者 では、川上牧師からみんなに聖書のお話です。

牧師 ハレルヤ！ 皆さんこんにちは。

子どもたち

こんにちは！

牧師

おおー、元気ですねえ、今日は子ども祝福式にたくさん子どもたちが集まってくれて感謝です。そして、お父さんお母さん、今日はかけがえのない大切なお子さんと共にお集まりくださり、心から歓迎いたします。

聖書にこういう言葉があります「あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい」(マタイの福音書5章16節)。「光の子供として歩みなさい」(エペソ5:8)まことの光である神様はみんなを照らしています。だからみんな輝けるのです。みんな「光の子」なのです。お日様の光で木や草が大きくなっていくように、みんなも神様の光を受けて元気いっぱい成長していくことを願っています。実は大人の皆さんも、すべてイエス様を信じる人は、イエス様から光を受けて輝いている「光の子」なのです。多くの大人は仕事で頑張っってひと花咲かせようとバリバリ働きすぎて、それで疲れ、生きてる輝きを失ってしまいます。それが職場や家庭にも影を落とし、悲惨な結果を招くことさえあるのです。そんなときに、ただ心を神様の方へ向けることで人は輝けるのです。そうすることでやがて皆さんの周りが明るくなっていきます。神様の光はまず皆さんのご家庭から始まって、周りの人々にも届いていくのです。

○教会ロビー

(子ども祝福式が終わってのギャ)

南

岡本課長、改めて今日はありがとうございます。来てくださるとは思ってもみなかったのが正直びっくりしました。

麗子

主人が来てくれて、この子たちも喜んでみたいたいです。

博

いやあ、初めて聖書の話聞いたよ。この四月から課長に就任したものの、働き方改革だなんだって猛烈に忙しくなって、その上、新入社員の教育の責任も負わされて、何だか、がむしゃらに突っ走っていたかもしれないな。南にも随分きついこと言ってしまった。悪かったよ。ここ最近、子どもたちが、家で「神様に感謝」とか言い出して、麗子も生き生きとしだして、.....何だか少し家の中が明るくなっているような気がしてさ。そのカギがなんか見つかるかもしれないと思って....

南

課長からそんな話を聞くなんて思ってもなかったです。

博

南は、入社した初めから、何だか他の新入社員とは違ったんだよ。うまく言え

ないけど、不思議とどこか落ち着いているっていうか、心に余裕があるっていうか、そんな感じがしてたんだよ。それが俺にはどんどんなくなっていくんで、よけい焦って、お前にもぶつけてたんだなあ。いやほんと、すまなかったと思ってる。

南 やめてくださいよ、課長。こちらこそなかなか課長のお力になれなくて内心、申し訳なさでいっぱいだったんです。

麗子 南さん、これからうちの子たちと、そして主人もよろしく願いますね。

博 おい、何だよそれ。俺まで子どもみたいじゃないか。もっともさっきの話で、牧師さんが大人でも「光の子」だと言ってたしな。

南 はい、「光の子」と言えば、僕がミッション系の幼稚園でもらった卒園アルバムが「光の子」というタイトルで、先生が一人一人に手作りで作ってくれたものでした。それをもらった時のうれしい気持ちが忘れられなくて、今、こうして教会学校の先生をやってるんです。ほんと、感謝です。

博 おっとそこでまた「感謝です」か。何だかうつってしまいそうなんだ。

麗子 あら、うつってくれたら私はうれしいんだけど？

博 え？ 勘弁してよ。(二人、そして南も笑う)でも何だか、ここにいると俺、やけに素直になってしまうよなあ。

ナレーション あれから夫は在宅ワーク中に時折、「感謝かぁ」とつぶやいている。気がついたら私に対して怒鳴ることはもうほとんどなくなっていた。

今日は日曜日、私は教会の会堂で礼拝の始まるのを待っている。子どもたちはキッズルームで教会学校の最中だ。その時、川上牧師が近寄ってきてささやいた。

牧師 ご主人、見えてますよ、後ろに。

麗子 え？

ナレーション 驚いて振り返ると、後ろのほうの席に夫がちょこんと座っている。私の隣に座るのがちょっと恥ずかしいのだろうか。会堂の窓から差し込む朝日が、今日は一段とまぶしい。

麗子 (モノローグ)「光の子」、子どもたちも、私も「光の子」。そして夫も、やっぱり「光の子」よねえ。すばらしいわ。

ナレーション 私は、心の中で、そうつぶやいていた――。

[完]